

一般部参考手本

七月

〈実用部〉

月は いづけり 夏夜の
青葉の蔭に さし流ひて
あふげは 胸に 忍び入る
ひかりの いろの ちかけさや

氏名

〈鑑賞部〉

逢ひ月の
のちの心
くらぶねば
むかしは
物
思ひかけ

あひ見てののちの心にくらぶればむかしは物を思はざりけり

〈臨書部〉 風信帖

茨建法 憧規 仁恩
徳里 不憚 煩塔

供養。不知故曆。已冷。伏惟。法體。

学生部参考手本

七月



〈中学 入門〉

人生、今いるところが道場だ
師もあり、友もある
学ばぬ姿勢を
忘れぬように
字 年 名前

〈小四〉

ささの葉さらさら
のきばにゆれる
お星さまキラキラ
金銀すなご
小四名前

〈小三〉

むこうのお山で
光るものは
月か星かほたるの光
小三名前

〈小六〉

時にはなぜか大空に
旅してみたくなるものさ
気球に乗って、そして
風に乗ってどこまでも
小六名前

〈小二〉

山のあさ
ふくよ
そよかぜ
小一名まえ

〈幼児〉

ほしまつり
ようなまえ

